

## 大阪大学・大阪外国語大学統合記念式典式辞

本日、大阪という地を拠点としてきた二つの国立大学法人、大阪大学と大阪外国語大学がここに統合いたしました。

両大学は、それぞれに長い教育・研究の伝統をもちながらも、ともに市民の厚い支援によって建学されたという創立の事情において共通するところがあります。

わたしは、この両大学が一つの大学になったことに歴史的な意義と不思議な縁(えにし)を感じずにはられません。

さて、大阪外国語学校モンゴル語部の卒業生である司馬遼太郎氏は、その著『花神』の冒頭で次のような文章を綴っています。

「適塾」という、むかし大坂の北船場にあった蘭医学の私塾が、因縁からいえば国立大阪大学の前身ということになっている。宗教にとって教祖が必要であるように、私学にとってもすぐれた校祖があるほうがのぞましいという説があるが、その点で、大阪大学は政府がつくった大学ながら、私学だけがもちうる校祖をもっているという、いわば奇妙な因縁をせおっている。

懐徳堂と適塾の精神を受け継ごうとした大阪帝国大学の創設には、大阪の政財界と市民の、大学設置への切なる待望が込められていました。そして1931年(昭和6年)、大阪大学は、民間からの厚い支援に助けられつつ、理学部、医学部からなるわが国六番目の帝国大学として、大阪中之島の地に創設されました。その後大阪工業大学、さらには大高、浪高などを統合し、昭和24年、新制・大阪大学として再スタートをきり、現在まで10学部、15研究科かならなる総合大学として発展してまいりました。

他方、大阪外国語大学の創設も、当時の大阪の実業家・林蝶子氏が「大阪に国際人を育てる学校を」という強い篤志の下、私財100万円を政府に寄附し、設立に至ったという経緯があります。そして1921年(大正10年)、大阪上本町の地に9語部からなる大阪外国語学校として創立され、昭和24年以後は、大阪外国語大学として設置され、外国語教育の西の雄として大きく発展してまいりました。

このように両大学の成り立ちにはきわめて似通ったいきさつがあります。そして長らく大阪市  
の北と南で並び立ってきた両大学は、その後、相次いでその拠点を北摂の地に移し、現在に至っています。

さて、本日、大阪大学は大阪外国語大学と統合し、新しい「大阪大学」として生まれ変わりました。大阪大学は、大阪外国語大学という、長きにわたって多彩な外国語教育を展開してきたこの大学と統合することで、「地域に生き世界に伸びる」というモットーに集約される、教育・研究・社会連携の三つの使命を、さらに大きく飛躍させる確かな礎をここに得ました。

このたびの統合がめざしているもの、その第一は、大阪大学の高度で多彩な専門的学術研究・教育のシステムと、大阪外国語大学の多彩な外国語教育のプログラムとを組み合わせることで、たとえば、現地語で調査やフィールドワークのできる社会学者や国際機関職員を、あるい

は現地語で話し、聴くことのできる医療従事者など、真に国際的な人材を養成するということです。これは、高度な専門研究・教育を担っている総合大学と、24 の多彩な外国語教育を担ってきた単科大学の統合によってはじめて可能になることです。全国で唯一、外国語学部と世界諸言語の研究センターをもつ国立大学法人として、大阪大学は今後、全国にも類を見ない新しい教育・研究に取り組んでいくこととなります。

次にめざすところは、全学共通教育、なかでも外国語教育の充実です。これまでの総合大学では、入学後に学ぶ外国語といえば、まず第一に英語、第二外国語としてはドイツ語、フランス語のほかにごく限られた外国語がつけ加わる程度でした。新しい大阪大学の全学共通教育では、第二外国語の選択範囲が、ドイツ語、フランス語のほか、スペイン語、イタリア語、ロシア語、中国語、朝鮮語へと広がります。さらに専門課程、大学院へと進学すれば、それぞれの専門領域の学習と並行して、第3外国語として24 の世界の地域語を学ぶことができるようになります。このことで、将来つくことのできる職種や社会活動の範囲が大きく広がりますし、またそうした将来の仕事を見据えた自己教育を早くから開始できるようになります。

第三に、わたしたちが「足もとの国際化」と呼ぶ地域貢献の重層化ということがあります。進行するマルチカルチュラルな社会のなかで、わたしたちは、外国人研究者・就労者とその家族が健やかに安心して住める地域社会づくりを推進しなければなりません。医学研究科や高等司法研究科の教員と旧外国語大学の教員が協力して、病気をしたときもトラブルに巻き込まれたときも的確に仲介してくれる医療通訳や司法通訳を養成するとともに、外国人児童の教育支援をおこなう専門家とボランティアを養成することが、この統合によって可能になります。また、海外に企業拠点をもち、あるいは海外から外国人就労者を招聘する関西企業の国際交流の支援などにも、今後は本格的に取り組むことができるようになります。

そして最後に、この統合を機に、大阪大学は、近隣にある国際研究・協力の機関である国立民族学博物館や国際協力機構(JICA)とさらなる連携を深めることで、北摂地域一帯が、バイオ研究の拠点としてと同時に、国際協力における知的集積度のきわめて高いエリアとして、全国に強烈な存在感を示せるようになります。

両大学が、以上のようなビジョンをもって、ここに統合という、両大学にとって歴史的な大事業をなしえたこと、その第一歩は、平成16年春の国立大学法人化に際し、宮原秀夫前大阪大学総長と是永駿前大阪外国語大学学長が両大学の「統合」を決意し、その推進に向けての本格的な検討を指示されたことに始まります。そしてそれから三年半、大学としての文化も組織形態も異なる二つの国立大学法人の統合は、ご想像のとおり平坦な道ではありませんでした。けれども、両大学教職員のねばり強い努力と、そしてなによりも両大学の教育・研究・社会連携の事業をさらに充実させたいという熱い思いとによって、本日、ここにようやく、「統合」を記念する式典を迎えるに至りました。

この記念すべき式典は、言うまでもなく両大学のさらなる飛躍を祝すものであり、また新生・大阪大学への大阪外国語大学の生まれ変わりを祝すものでありますが、この記念すべき日は同時に、86年の伝統をもつ「大阪外国語学校・大阪外国語大学」の名が消える日でもあります。その言い尽くせぬ寂しさを、大阪外国語大学の当事者は言うにおよばず、大阪大学の構成員もまた、大阪の国立大学の盟友として深く分かち持つものであります。

両大学の統合への長い道を、これまで温かい眼をもって見守り、支援して下さったすべての方々、新しく生まれ変わった大阪大学のこれからのさらなる飛躍を心待ちにしているご列席のみなさま方、統合準備に膨大な時間を費やして従事してきたすべての教職員、そして最後になりましたが、何よりもこの統合を、揺るがぬ決意で実現にまで導いてこられた宮原前総長、是永前学長のご努力に、ここに大阪大学を代表いたしまして、あらためて深い敬意と感謝の言葉を申し述べさせていただきます。

ご支援、ほんとうに有り難うございました。